

小美玉市の歴史を知らう③

権現平2号墳

現在、生涯学習センターコスモスで、福祉につこりまつりや子どもまつりが行われる際、臨時駐車場として利用されている空き地(通称権現山駐車場)は、もともと4基の古墳があり、平成2年に発掘調査が行われました。この発掘調査で、実は、それまでの茨城県や霞ヶ浦沿岸域の歴史を塗り替えるような大きな発見があったことは、あまり知られていません。



常設展示されている、権現平2号墳から出土した土器
(東海地方の土器の影響が強く出ます)



管玉



勾玉

これは方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)と呼ばれる古墳時代の初めごろの古墳です。方形周溝墓自体は弥生時代に近畿地方で出現し、後、南関東まで広がりました。茨城にはその後の古墳時代になつて導入される首長墓であります。一辺が20mを越す大形のもので、発掘当時は県内で最大級のものでした。この権現平2号墳の特徴は、土器の特殊性と副葬品の豊富さにあります。この部分においても、それまで見られなかったものが多々出土し、専門家や関係者の注目を浴びました。



グリーンタフ製の剥片

まず土器ですが、多くの土器が出土したなか、東海地方の影響を著しく強く受けた土器が出土したのです。茨城の場合、古墳時代には南関東などの他地域から、人や文化、新しい技術が移ってきていると言われています。ただ、この権現平2号墳の発掘調査が行われるまでは、一部、東海地方や畿内地方、北陸地方のものが出てきましたが、圧倒的に南関東のものが多く、それらの地方のものは、南関東の人たちを経由して、茨城に入ってきたものだと考えられていたのです。しかし、権現平2号墳で東海地方の土器が中心に出土しました。これにより、南関東だけでなく東海地方の人たちも、この霞ヶ浦の地に移り住んできており、その中から、初期の有力首長が誕生していることが分かったのです。



紡錘形石製品の破片

を、まさに塗り替えるような調査成果で、当時は大変ショッキングなニュースであったようです。

また副葬品の豊富さも、他の方形周溝墓と比べ、群を抜いていました。普通、数個体の土器しか出てこないのですが、権現平2号墳の場合、勾玉、管玉といった玉類をはじめ、グリーンタフという石を打ち欠いたもの(剥片)や、紡錘形石製品の破片など、多種類の副葬品が出土したのです。この点においても、霞ヶ浦に最初に誕生した有力首長の墓であることは、まず疑いようがありません。

参考展示
「南関東との交流〜農耕社会への道のり〜」
会期
12月21日(日)まで
会場
小美玉市玉里史料館(小美玉市生涯学習センター内)
関連行事
12月14日(日)
午前10時30分 展示解説会



現在、展示されている権現平2号墳出土土器

【小美玉市教育委員会
生涯学習課 ☎26-9111】
(次回の掲載は2月号です)